

シンポジウム：

山王祭と大妻学院—祭りをととした大学博物館の地域貢献

本年は日枝神社の祭礼山王祭の山車練物が、江戸城に入り400年にあたります。本学は、その山王祭の氏子地域です。そして学祖大妻コタカの日枝神社への信仰も篤く、戦前は毎月十日に白馬に乗った神主さんが来校し、学内の大妻神社で祝詞をあげ、祭礼当日の六月一五日には全校生徒が参拝をしました。

かつて山王祭は、江戸の二大祭礼とされ、北の丸で将軍の上覧（高貴な人が見物すること）があるので天下祭りと呼ばれました。なかでも各町内が引きだす山車は祭りの主役で、「猿」「てくてん小僧」「静御前」「浄明一来法師」など、山車を飾る人形は、その町のシンボルでした。

しかし明治以降、山車は次第に曳きだされなくなり、江戸の面影を失ってしまいます。ところが近年、山車人形が千代田区の文化財に指定されるなど、それを蘇らせ、保存する活動が、活発に行われています。それは地域社会の活性化と住人の絆をつなぐ行事として、祭礼の役割が見直されはじめたことにも関連するでしょう。

本シンポジウムは、氏子地域にとまらず、日枝神社と深い関係にあった大妻学院の歴史を振り返ることで、教職員や学生・生徒が地域社会の一員として自覚を深めるとともに、天下祭りと呼ばれた往時の山王祭の姿をとおして、21世紀の新たな祭りの在り方を地域の皆さんとともに話し合うことを目的としています。大学博物館の立場からできる地域貢献とは何か、皆さんとともに考えてみたいと思います。

日時：10月22日（土）12：50～16：10

場所：大妻女子大学F棟4階 F432講義室（168人収容）

挨拶 大澤清二（大妻女子大学副学長・博物館館長）

第一部 大妻学院と日枝神社

大妻学院が江戸天下祭りの中心をなす地域であったこと及び戦前の学校行事と学内中庭にあった大妻神社のことなど、学院の歴史を振り返ります。

パネリスト

花村邦昭（理事長・大妻女子大学学長）
高見俊樹（前諏訪市教育次長）
井上美沙子（大妻中学高等学校校長）
井上小百合（大妻コタカ記念会会長）

＜博物館・研究所の紹介＞

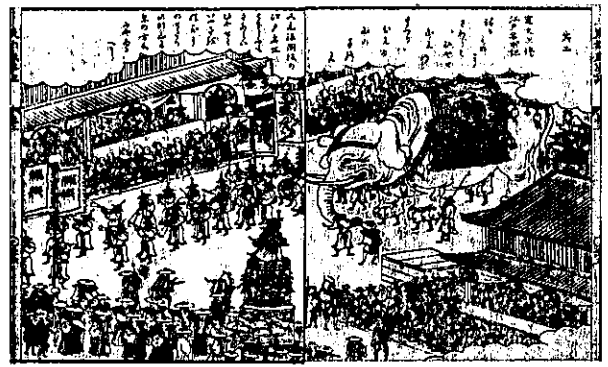
榎崎修一郎（博物館学芸員）・高垣佐和子（大妻コタカ・大妻良馬研究所）

第二部 山王祭と地域の役割

祭礼に従事する地域の活動家、研究者、山車人形の専門家等が一同に集まり、現代社会における地域と祭礼の関係を語り合います。

パネリスト

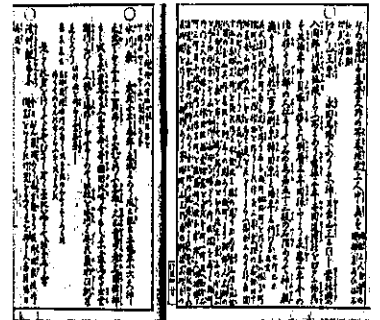
是澤博昭（博物館准教授）
滝口正哉（成城大学・立正大学非常勤講師）
笠井清純（麹町出張所地区連合町会会長）
伊久裕之（日枝神社権禰宣）



『東都歳事記』 天保9年（1838）個人蔵



『江戸府内絵本風俗往來』上
菊池貴一郎
明治38年（1905）個人蔵



『諸国図絵年中行事大成』文化3年（1806）
個人蔵

大妻女子大学博物館

祝天下祭り400年「山王祭と猿の諸相」展

本学は、山王祭の氏子地域であり、日枝神社への信仰も篤く、祭礼当日には全校生徒による参拝も行われていました。さらに山王信仰で猿は「神使」であることから、本年が申年であることも記念して、日枝神社と本学との関係、江戸時代の山王祭の様子、日本人の生活と猿との関係など振り返ります。

会期：平成28年10月15日（土）～11月19日（土）

[休館日：日曜・祭日・月曜・火曜]

10：00～16：00

入場料無料

*但し10月16日（日）は開催いたします。



『江戸名所図絵二』
部分
個人蔵



交通案内

JR 総武線、東京メトロ有楽町線・南北線、都営地下鉄新宿線
市ヶ谷駅下車徒歩15分
東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅下車徒歩15分